

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後デイサービス くれよん		公表日	2026年 2月 28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	工夫していると思う点・改善が必要だと思われる点など	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係が適切であるか。	7	0	室内の構築をすることで、子どもたちが安心して過ごせる。部屋数も十分にあり、活動も学年で分ける事でしっかりとスペースが確保されているそれぞれの部屋に目的を決めて活動が出来るようにしている狭いと思うこともなく、ゆったりと過ごすことが出来る。	特になし	室内の構築をすることで、子どもたちが安心して過ごせる。少人数で関われるスペースができるようになる。スペースは十分にあると思う。個別対応・落ち着くためのスペースも確保できている。部屋数も十分にあり、活動も学年で分ける事でしっかりとスペースが確保されているそれぞれの部屋に目的を決めて活動が出来るようにしている狭いと思うこともなく、ゆったりと過ごすことが出来る。・活動に応じた部屋分けができています。指導室が分けられていて、学年や活動に合わせて使い分けしている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	活動が集中する時間帯や見守りが必要な場面では職員を増やすなど柔軟な配置を心がけている。その日の利用定員や子どもの状態を考慮して、バランスよく職員の配置が出来ている。	特になし	活動が集中する時間帯や見守りが必要な場面では職員を増やすなど柔軟な配置を心がけている。法定人員は確保できている。急な人員配置にも対応できる人員は備えている。その日の利用定員や子どもの状態を考慮して、バランスよく職員の配置が出来ている。適切であると思う、状況によって人数を増やして対応している子どもたちの発達に応じて職員が配置されている。・個別で対応が出来るようにして、職員の配置を行っている。その日の利用人数に対して、職員の配置を適切に行うことが出来る。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	室内はフラットの状態にし段差がないように配慮し、入り口は階段とスロープにしている。玄関は段差を低めにしている。各部屋ごとに何をやる部屋が提示し、しっかりと構造化を図れている。	特になし	室内はふらつとの状態にし段差がないように配慮し、入り口は階段とスロープにしている。玄関は段差を低めにしている。玄関を入った時点で行動しやすくされている。また荷物などの整理もしやすい棚等設置している。各部屋ごとに何をやる部屋が提示し、しっかりと構造化を図れている。また環境上の配慮も適切に行われている。部屋の使い方を書いて掲示している分かりやすい構造になっている。段差も極力ない。・スロープを設置するなど、バリアフリーの配慮が出来ていて、日々の会議で、情報の共有を行っている。・一人ひとりに合わせた環境設定を行っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	毎日の掃除や整理整頓を行い、子どもたちが清潔で心地よく過ごせる環境づくりを工夫している。一つの部屋は何もない部屋にするなど、落ち着いて過ごせるようにしている。毎日掃除の時間をしっかりと確保して、清潔で心地よく過ごせる環境を整えている。	特になし	毎日の掃除や整理整頓を行ない、子どもたちが清潔で心地よく過ごせる環境づくりを工夫している。また、活動内容に合わせて家具の配置を動きやすく安全な配置に変えている。清潔に関しては十分な時間をとり清掃し、消毒している。活動に合わせて設定しやすい空間は確保している。毎朝掃除をしっかりと行い、整理整頓をして活動しやすい空間となっている。掃除をして清潔に保っている日々丁寧に掃除をするよう気を付けている。一つの部屋は何もない部屋にするなど、落ち着いて過ごせるようにしている・毎日掃除の時間をしっかりと確保して、清潔で心地よく過ごせる環境を整えている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	宿題は落ち着いて取り組めるよう個別のスペースを確保し、気持ちの切り替えができないとき、また友だちとのトラブルでイライラしているときにクールダウンできるような「落ち着きルーム」（一人の空間でいれる場所）を指導室に置いている。	特になし	宿題は落ち着いて取り組めるよう個別のスペースを確保し、気持ちの切り替えができないとき、また友だちとのトラブルでイライラしているときにクールダウンできるような「落ち着きルーム」（一人の空間でいれる場所）を指導室に置いている。必要に応じて活動の部屋を分けるなど、環境作りが出来ている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	毎月個人で支援への目標設定をつくり、一日の終わりにその日の反省やその日の課題を書き振り返りを全員で行っている。研修を多く設けることで、PDCAについて理解を深めている。	特になし	毎月個人で支援への目標設定をつくり、毎日自分の予定表を書き、一日の終わりにその日の反省やその日の課題を書き振り返りを全員で行っている。各個人が毎日振り返り・目標設定できるようにされている。各行事ごともしっかりと振り返りと反省を行い、全職員に周知できるように環境が整っている。している定期的な会議を行っている・朝礼を行い、前日の振り返りを行ったり、研修を多く設けることで、PDCAについて理解を深めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	評価表を集計した後、会議を開き全員で意向を把握し内容の改善を話し合っている。事業所評価を確認し改善できる内容は即座に行っている。アンケートを実施し、全体で共有することで、改善に向けて協議出来る。	特になし	評価表を集計した後、会議を開き全員で意向を把握し内容の改善を話し合っている。事業所評価を確認し改善できる内容は即座に行っている。検討が必要な場合も会議などを設けて改善できる方向性をもって業務にあたっている。定期的に保護者会を開き、保護者の悩みや困りごとを聞き、その内容を業務改善につながる事が出来る。職員間で周知し、つなげている年度末には評価表をお願いして、無記名で書いてもらうようにしているので素直な感想が聞けると思う。また全体でその内容も確認し業務改善につなげている。・アンケートを実施し、結果についても話し合いを行い、全体で共有することで、改善に向けて協議出来る。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	個別に面談を行なうことで全員の前では言いにくいことでも伝えられるよう機会を設けている。業務改善係を設置し、誰でも気軽に意見できる場を設けている。	特になし	個別に面談を行なうことで全員の前では言いにくいことでも伝えられるよう機会を設けている。業務改善委員会があり、適宜改善提案への対応を行っている。スタッフから提示されたものや係もしくは本部が提示するものもあり、検討するための話し合いを持っている。業務改善係を設置し、誰でも気軽に意見できる場を設けている。業務改善係を設けていいる言いやすい環境で、業務改善も係を作って意見を拾いやすくしてある。・業務改善ボックスをつくり、職員が意見を言える環境作りが出来ている。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	研修などで第三者の方の意見をもらい、必要に応じて改善に取り組んでいる。社労士さんやコンサルテーションを行ってくださる方もふくめ、評価を行っていらっしゃる。	特になし	研修などで第三者の方の意見をもらい、必要に応じて改善に取り組んでいる。社労士さんやコンサルテーションを行ってくださる方もふくめ、評価を行っていらっしゃる。結果は改善につなげられている。定期的に評価してもらい業務改善につなげている。社労士の方が入って評価をしてもらい、業務改善につなげている・研修などで第三者の評価をもらい、業務改善につなげている。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を実施する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	毎月外部講師や施設内でテーマを決めて研修を開催している。研修後は報告書を提出し回覧することで、他の職員の意見も見れるようにしている。	特になし	毎月必ず一回実施している。研修は月に一回必ず実施している。毎月外部講師や施設内でテーマを決めて研修を開催している。毎月行われている毎月研修があり、全体的に向上できるように機会が確保されている。月1回の研修を実施し、研修後は報告書を提出し回覧することで、他の職員の意見も見れるようにしている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	会議を定期的に行なうことで支援についての共有ができています。会議を定期的に行なうことで支援についての共有ができています。また適切に支援プログラムを作成し、公表している。	特になし	会議を定期的に行なうことで支援についての共有ができています。また個別支援の計画だけを事業所ごとにまとめて共有欄に入れることでいつでも目を通せるようにしている。年度ごとに支援プログラムを作成し、公表している。会議を定期的に行なうことで支援についての共有ができています。されているデフォルトでも目にするため周知されている・日々の会議で支援についての共有と協議を行うことが出来る。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	親御さんしっかりと時間を取ってアセスメントを行い、親御さんのニーズ、子どもの課題をしっかりと分析して計画を立てている。客観的に分析を行い計画を作成できている。	特になし	家での様子を保護者の方に聞き、今必要な支援を作成している。アセスメントは6か月に1度必ず行っている。ニーズ・チャートの分析を行い個別支援計画を作成している。親御さんしっかりと時間を取ってアセスメントを行い、親御さんのニーズ、子どもの課題をしっかりと分析して計画を立てられている。されている会議を行い分析しながら作成されている・アセスメントを適切に行い、日々の会議のなかでも子どもの様子を伺いながら、客観的に分析を行い計画を作成できている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	管理者だけでなく、スタッフも含めて会議を行い共通理解を深めている。個別支援会議や氷山モデル会議を行い、支援内容の確認や意思統一を図っている。	特になし	個別支援会議を行ない、共通理解のもとで検討を行なっていくようにしている。個別支援会議や氷山モデル会議を行い、支援内容の確認や意思統一を図っている。管理者だけでなく、スタッフも含めて会議を行い共通理解を深めている。関わっている職員が集まって、話し合いながら計画を作成している・会議などで職員全員で支援内容を確認し、一人ひとりに対する支援について話し合う場を設けている。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	日々の会議の中で支援計画の共有を行い、計画に沿った支援を行えるようにしている。	特になし	支援を行なうなかで、その月の支援内容をその都度確認できるように支援計画を共有の欄に収納しいつでも確認できるようにしている。計画は誰もが確認できるようにしている。また支援内容もスタッフ間で共有している。しっかりと共有され支援が行われている。行えるようにしているデフォルトなどで確認することで計画や支援目標を頭に入れてながら支援を行っている・日々の会議の中で支援計画の共有を行い、計画に沿った支援を行えるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	朝礼で前日の子どもの気になる様子を伝えることで、その日の支援で行動観察できるようにしている。既存のアセスメントツールを使い評価を実施し、当施設独自のツールも使用しながら様々な角度からアセスメントを行っている。	特になし	朝礼で前日の子どもの気になる様子を伝えることで、その日の支援で行動観察できるようにしている。既存のアセスメントツールを使い評価を実施し、当施設独自のツールも利用している。氷山モデルなども用いて様々な角度からアセスメントを行っている。している氷山モデルなどのフォーマルアセスメントを使用したり、フォーマルなアセスメントを使用している。・日々の会議の中で、前日の気になる子について様子を職員全体で共有するなど、適切に確認を行うことが出来る。
適切な支援	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	支援計画を作成するなかで、アセスメントやモニタリングを適切に行なって、必要な支援に対する具体的な支援内容を設定している。各項目に具体的な支援内容が設定され、スタッフ、ご家族と共に共有されている。	特になし	支援計画を作成するなかで、アセスメントやモニタリングを適切に行なって、必要な支援に対する具体的な支援内容を設定している。保護者の意向を尊重し支援計画の立案を行っている。各項目に具体的な支援内容が設定され、スタッフ、ご家族と共に共有されている。設定されている。日々の支援に取り入れている具体的な支援内容が設定され支援に繋がっている。・支援計画をつくる中で、アセスメントやモニタリングを適切に行い、内容を踏まえたうえで、必要な支援に対する具体的な支援内容などを設定している。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	各チームの担当制で情報を共有しながらプログラムを立て、週案を作成している。	特になし	情報を共有しながらプログラムを立て、担当制で週案を作成している。各チームで行い、共有している。様々な意見を取り入れプログラムが組まれている。行っている製作などは話し合っ進め、子どもへの対応が違っていると感じた時も話し合いを持っている。・担当制で情報を共有しながらプログラムを立て、週案を作成している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	毎月の五領域の目標に沿って計画を立てることで、内容が固定化しないよう工夫をしている。季節ごとに活動を考え、行事なども大切にプログラムを組んでいる。	特になし	毎月の五領域の目標に沿って計画を立てることで、内容が固定化しないよう工夫をしている。必ず現状の確認を行い、その時の課題や強みを見つけていっている。季節ごとに活動を考え、行事なども大切にプログラムを組んでいる。されている毎月の決まった活動でも内容を変えて、子どもが飽きないようにしている。・五領域を意識して活動を考えることで、固定化しないよう工夫を行うことが出来る。

の 提 供	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	子どもの年齢だけではなく成長過程にも合わせて作成し、集団活動が難しい場合は、状況に合わせて個別の対応や活動を行っている。	特になし	子どもの年齢だけではなく成長過程にも合わせて作成し、集団活動では無理に集団に入らず、状況に合わせて個別の対応や活動を行っている。基本的に集団活動がメインだが、その中で個別に対応できる計画を検討している。子どもの特性を鑑みながら、個別活動と集団活動を組み合わせながら支援を行っている。行われている。集団活動を子どもたちの様子を見ながら行うようにしている支援計画で作成され支援に繋がるようになっていく。・個別活動が必要と判断したときは臨機応変に活動の変更をしながら活動を行っている。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	活動前は前日にスタッフで打ち合わせを行い、支援内容、役割分担を確認してチームで支援を行っている。	特になし	その週の支援内容を目につくところにボードに書いて掲示しておくことでその日の支援内容をいつでも一人ひとりが確認できるようにしている。活動の準備は前もって役割分担することでチーム全体で準備できるようにしている。事前の確認作業は朝礼時に行われている。活動前は前日にスタッフで打ち合わせを行い、支援内容、役割分担を確認してチームで支援を行っている。公共の場での活動の際には、必ず行っている朝礼で子どもの様子を話し確認し合い、会議を行ったりしながら支援を行っている。・毎日のミーティングで、打ち合わせや確認を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	毎日その日の支援の振り返り、反省を行い、その日の課題を挙げ翌日に改善できるように振り返りが出ている。	特になし	朝礼で前日の気になる子どもの様子を情報共有している。毎朝の朝礼時に気になった子どもの様子や共有しておく事項の確認を行っている。毎日その日の支援の振り返り、反省を行い、その日の課題を挙げ翌日改善できるように振り返りが出ている。共有し、いつでも回覧できるようにしている気になることはその日のうちに管理者に報告し、翌日の朝礼で子どもの様子などの情報交換を行い、接し方や方向性などをみながら確認している。次の日の会議で前日の振り返りや気になる子どもの様子を情報共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	支援に関して一人ひとりの記録を経過記録の共有事項に記入することで全員が把握できるようにしている。職員間で申し送りをしてそれを記録に残し、全員が把握できるようにしている。	特になし	会議を行ない支援の検証・改善につなげている。支援に関して一人ひとりの記録を経過記録の共有事項に記入することで全員が把握できるようにしている。記録はとっている。特に気になった情報を記録している。毎日その日の支援の振り返り、反省を行い、その内容を記載して改善できるように行っている。行っているデフォルトや毎朝の記録を取り支援の検証改善につなげている。職員間で申し送りをしてそれを記録に残し、全員が把握できるようにしている。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	定期的にモニタリングを行い、適切な計画の見直しを行っている。	特になし	定期的にモニタリングを行なうことで、計画の見直しを行っている。6か月に1度の見直しを行う。定期的に親御さんにモニタリングを行い、適切な見直しを行っている。行っている半年に1度はみんなでその子の様子を確認し、適切な見直しを行っている。定期的にモニタリングを行い、見直しをしている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0	子どもの特性や発達段階に応じて、主となる活動と補助的な活動を職員間で共有しながら支援を行っている。土曜日は外へ出かけたりと余暇の提供、地域交流と自立支援、日常生活の充実のため支援を行っている。	特になし	子どもの特性や発達段階に応じて、主となる活動と補助的な活動を職員間で共有しながら支援を行っている。子どもの状態やニーズに合わせて組み合わせた支援を行っている。土曜日は外へ出かけたりと余暇の提供、地域交流と自立支援、日常生活の充実のため支援を行っている。行っている。行っている。毎週基本活動を組み合わせ意識しながら行っている。週案を立てる際に、複数組み合わせることを意識して立てていくようにしている。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	子どもが主体となって動いていけるように、子どもたちに意見を聞きながら支援を行っている。活動内容などは子どもが自発的に好きなことが行えるように工夫し支援を行っている。	特になし	子どもが主体となって動いていけるように、子どもたちに意見を聞きながら支援を行っている。声掛けなどは2択の選択などで自己決定を促している。活動内容などは子どもが自発的に好きなことが行えるように工夫し支援を行っている。まずは、子どもたちで行えるように見守るよう心掛けてこちらが決めて何かを行うのではなく、子どもたちの意向を聞きながら自分で考えるということを意識している。活動もいろいろ選択肢を用意する等、自己決定が出来るようにしている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	直接支援に携わる職員が参加するようにしている。子どもの様子をスタッフ間でしっかりと共有し、理解した職員が参画している。	特になし	直接支援に携わる職員が参加するようにしている。主に児発管の参加がされている。子どもの様子をスタッフ間でしっかりと共有し、理解した代表者が参画している。している各部署で日々接している職員が参画している。日々の活動の中で支援の現場に入っている職員が参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	主治医、協力医療機関、学校等とも連携、協力して支援を行っている。他の関係機関と密に連携を取り支援を行なっている。	特になし	学校など話し合う場を定期的に設けて連携をとるようにしている。各機関の連携は、必要に応じて行っている。他の関係機関と密に連携を取り支援を行なっている。主治医や協力医療機関があり、学校等とも連携して支援を行っている。定期的に話し合いをする場を設けることで連携を図るようにしている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	学校の担任とも送迎時などに情報を共有して連携を適切に取れている。担任や、支援級の職員と直接連絡をとり、トラブルなどにも対応出来るようにしている。	特になし	学校迎えの際に、その日の様子を担任や支援級の職員に聞くようにしている。送迎時に一緒にこられる先生へ質問し、情報の獲得を行っている。学校の担任とも送迎時などに情報を共有して連携を適切に取れている。行っているホームページなどを活用したり、毎週末日課表を確認して、不明な点やトラブルがあった時の連絡も密に行っている。担任や、支援級の職員と直接連絡をとり、トラブルなどにも対応出来るようにしている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	デイの利用開始時など、その都度必要に応じて情報共有し、相互理解に努めている。	特になし	家庭環境など気になる様子を今よりさらに前の状況を知りたいときに情報共有をもとめている。デイの利用開始時に情報共有を行っている。しっかりと情報共有され相互理解に努めている。情報共有をしている保育歴などが記録されており、それを確認しながら情報共有、相互理解に努めている。その都度情報共有して相互理解に努めている。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0	移行する場合は状況の報告が出来るように設定している。引継ぎをしっかりと行い情報を提供できている。	特になし	必要な情報を共有し、福祉事業所の見学を行なうようにしている。移行する場合は状況の報告が出来るように設定している。引継ぎをしっかりと行い情報を提供できている。移行する場合は、それまでの支援内容等の情報が提供できるようにしっかりと記録、保存してある。必要な情報を共有することが出来る。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	連携を図るなかで、事業所側も定期的に研修を行いそのなかで助言を受け取っている。	助言があれば受け入れてゆく。	定期的に研修を行ない助言を受け取っている。正直連携は取れていない。助言があれば受け入れてゆく。センターと連携を取り必要に応じて研修を受けている。設けられている研修が行われるなど、連携が図られている。・連携を図るなかで、事業所側も定期的に研修を行いそのなかで助言を受け取っている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	7	0	他の放課後等デイサービスと活動をおこなったりと交流を持つ機会を提供している。	特になし	他事業所のデイとの交流を長期休みなど時間が多くとれるときに交流機会をつくっている。他の放デイとの交流はある。他の放課後等デイサービスと活動をおこなったりと交流を持つ機会を提供している。作ってきたい他の放課後等デイサービスの交流を積極的に持ち、一緒に活動を行っている。・定期的に連絡を取り合い交流の機会をつくっている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4	積極的に参加できている。	機会があれば参加したい。	現状、積極的参加が思うようにできていない。存在は確認しているが、参加はできていない。積極的に参加できている。参加していきたくて参加できているかどうか不明。・機会があれば参加したい。
保 護	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	送迎の際には、その日の様子を伝えるようにし、保護者からも話しかけやすいような対応をみんなで心がけている。保護者の方が話しやすい環境をつくることを心がけている。	特になし	送迎時にその日の様子を伝えたり、個別に面談を行なうことで共通理解をもつことで、保護者の方が話しやすい環境をつくるようにしている。必要があれば電話等で話をしていく。送迎時に子どもの状況を伝えたり連絡帳で発達状況をお知らせし共通理解を持てるようにしている。送迎時にコミュニケーションをとるようにしている送迎の際には、その日の様子を伝えるようにし、保護者からも話しかけやすいような対応をみんなで心がけている。・送迎時に様子を伝え、保護者の方が話しやすい環境をつくることを心がけている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	保護者会などを利用してペアレントトレーニングに対する情報提供を行っている。個別面談や保護者会を行うことで、情報の共有や個別での対応が出来るようにしている。	特になし	保護者会を定期的に行なうことで、保護者同士での情報交換の場や個別での対応ができるようにしている。年に一度は研修の機会を設けている。保護者会などを利用してペアレントトレーニングに対する情報提供を行っている。保護者会を開催して、保護者同士の交流の場を設けている保護者会などを実施したり、面談を用いて家族の対応力の向上が図れるようにしている。・個別面談や保護者会を行うことで、情報の共有や個別での対応が出来るようにしている。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	運営に関するものは契約時に説明しその他は適宜説明を行っている。その他にも契約時、担当者会議のなかで丁寧な説明を行っている。	特になし	担当者会議では、丁寧な説明で伝えるようにしながら、わからないところなどがポイントごとに確認をするようにしている。運営に関するものは契約時に説明しその他は適宜説明を行っている。利用者が理解しやすいように丁寧に説明している。行っている契約時に丁寧な説明を行っている。・契約時、担当者会議のなかで丁寧な説明を行っている。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点から、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	個別の面談、担当者会議などで意向を聞きながら確認する機会を設けている。家族や学校等とも連携し、意向を確認しながら作成している。	特になし	個別の面談、担当者会議などで意向を聞きながら確認する機会をつくっている。意向は必ず確認している。子どもや保護者の意思を尊重し、子どもに不利益が生じないように、子どもや家族の意向をしっかりと確認する機会を設けている。設けているモニタリングを行い、家族や学校等とも連携し、意向を確認しながら作成している。・送迎時や個別の面談、担当者会議などで意向を聞き、確認する機会をつくっている。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0	計画を示しながら、声に出して説明し同意を得ている。計画書作成後は、支援内容をこまかく説明した後、携帯からアプリを通してサインをもらえるように実際に携帯を用いて説明を丁寧に行なっている。	特になし	計画書作成後は、支援内容を用紙にてこまかく説明した後、携帯からアプリを通してサインをもらえるように実際に携帯を用いて説明を丁寧に行なっている。計画の更新時には必ず行っている。計画を示しながら、声に出して説明し同意を得るよう心がけている。得ている保護者には計画の内容を丁寧に伝えた上で同意を得ている。・支援内容について、保護者に直接対面で説明を行い、同意を得ている。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	送迎時での会話で家庭での困りや様子を聞き、気になるときは早急に面談の実施を行っている。また必ず6か月に1度は面談する機会を設けている。	特になし	送迎時での会話で家庭での困りや様子を聞き、気になるときは早急に面談の実施を行っている。面談は家族の要望があれば行う。また必ず6か月に1度は面談する機会を設けている。定期的に面談を行い、悩みや困りごとの相談に応じるように支援している。行っている定期的な面談を行ったり、気になるときはこちから声をかけるなどの支援を行っている。・送迎時などに情報を共有し、必要に応じて個別の面談を行うなど、適切な支援を行うことが出来る。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	定期的に保護者会を開催し、近い学年ごとに分かれてグループをつくり交流する場をつくるようにしている。また行事などに兄弟児の参加を呼びかけ交流する機会を設けている。	特になし	定期的に保護者会を開催し、近い学年ごとに分かれてグループをつくり交流する場をつくるようにしている。保護者会には年に2回は開催している。また行事などに兄弟児の参加を呼びかけ交流する機会を設けている。保護者会を定期的に開催し、交流する場を設けている。している定期的な面談を行ったり、気になるときはこちから声をかけるなどの支援を行っている。・保護者会を行い、そのなかで学年ごとに分かれてグループをつくり、交流する場を設けている。

者への説明等	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情があれば速やかに報告し、対応が出来る体制を整えている。苦情があったときは、まず管理者が対応し、その後社長に現状を報告し適切に対応を行うようにしている。	特になし	苦情が出た際には、社長に現状報告した後、まず管理者が対応し、話しが長引くときには社長が対応を行なっている。そして、内容を職員間で共有し事業所全体で周知するようにしている。苦情については苦情処理委員会の設置、対応も共にしている。苦情があった場合には迅速に対応している。苦情があれば速やかに報告し、対応が出来る体制を整えている。話し合いをしている苦情に関しては迅速に職員間で共有し、最善策が取れるようにしている。・苦情があったときは、まず管理者が対応し、その後社長に現状を報告し適切に対応を行うようにしている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7	0	Instagram、Facebookを活用しブログの更新を行なって情報の発信を行なっている。毎週ブログを更新し、日々の活動などの情報を発信している。	特になし	Instagram、Facebookを活用しブログの更新を行なって情報の発信を行なっている。行事予定や活動内容はカレンダーを配布しお知らせをしている。毎月の通信・毎週のInstagram・Facebookなどで情報発信を行っている。通信を発行し行事予定をお伝えするとともにInstagramで毎週1週間の活動の報告を行っている。SNSの更新に力を入れている毎月通信を発行したり、毎週ブログを活用し、日々の活動などの情報を発信している。・フェイスブックやInstagramを活用し、週1回のブログ更新を行い、情報を発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行い、パソコンのセキュリティを強化するなど、十分留意している。	特になし	鍵付きの書庫で個人情報の保管を行なっている。パソコンのセキュリティを強化し十分に留意している。個人情報の取り扱いについては普段から話しをすることで十分に留意ができています。個人的な情報の持ち出し禁止・その件に関しての話をすること自体が問題となることは職員で周知している。施設外に書類などは持ち出さないのはもちろんのこと守秘義務を徹底している。できている個人情報の書類は鍵付きの書庫に保管し、会話などから流出しないようにも職員間で心がけている。・鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行い、パソコンのセキュリティを強化するなど、十分留意している。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	子どもや保護者一人ひとりの状況に合わせて配慮を行なっていく、話しの内容によっては内容をまとめてから伝えるようにしている。保護者にも理解できるような情報伝達を心がけている。	特になし	子どもや保護者一人ひとりの状況に合わせて配慮を行なっていく、話しの内容によっては内容をまとめてから伝えるようにしている。各個人の状態に対し配慮を行っている。保護者に対しても同様。しっかりと配慮している。理解しやすいように文面で伝えるように心がけている。行っている障害のある子どもに対しては、その子のレベルに応じて対応し、保護者にも理解できるような情報伝達を心がけている。・デバイスを活用して、情報伝達を迅速に出来るように配慮している。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	夏祭りなどの大きな行事では地域住民、自治会に向けお知らせのプリントを配布したり、またSNSでも情報を発信し、地域に開かれた事業運営を図っている。	特になし	夏祭りなどの大きな行事では地域住民、自治会に向けお知らせのプリントを配布したり、またSNSでも情報発信している。行事には近隣の住民を招待している。夏祭りなどの大きな行事の際は地域の方も呼び出して地域に開かれた事業運営を図っている。地域の方や携わっている方に声をかけて招待している行事には地域の方を招待し、地域に開かれた事業運営を図っている。・事業所の行事のチラシをつくらしたり、夏祭りなど地域住民にSNSを活用して発信している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	マニュアルを作成して、マニュアルに沿った研修や訓練を定期的に行なっている。各マニュアルを作成し周知すると共に発生を想定した訓練も行っている。	特になし	マニュアルを作成して、マニュアルに沿った研修や訓練を定期的に行なっている。各マニュアルの策定を行い周知徹底を図っている。訓練の実施も行っている。各マニュアルを作成し周知すると共に発生を想定した訓練も行っている。避難訓練や研修で周知しているそれぞれのマニュアルを作成し、定期的な訓練も行っている。・マニュアルを作成し、マニュアルに沿った定期的な訓練や研修を行うことが出来る。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPを策定し、必要な訓練や研修を行なっている。月に合わせて訓練内容を変えて行なっている。	特になし	BCPを策定し、必要な訓練や研修を行なっている。月に合わせて訓練内容を変えて行なっている。BCP策定し、研修・訓練を行っている。BCPを策定し定期的に必要な訓練を行なっている。研修をして、行っているBCPを策定し、定期的な避難訓練や研修などを行なっている。・BCPを策定し、必要な訓練や研修を定期的に行なうことが出来る。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0	服薬の情報は会議で全体で共有をしている。変更時は、迅速に職員で口頭、そしてLINE（グループ）で共有をしている。医療情報・医師の指示書は必ず提出をお願いしている。	特になし	服薬の情報は会議で全体で共有をしている。変更時は、迅速に職員で口頭、そしてLINE（グループ）で共有している。医療情報・医師の指示書は必ず提出をお願いしている。事前に子どもの状況を確認して発作等に備えられる体制を整えている。・個人ファイルを見て知るようになっている入所時、保護者の方に子どもの状況、状態を確認している。・服薬の情報など、全体で共有を行うことが出来る。変更があった場合は、迅速に職員で共有できるようにしている。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	職員間で情報を共有し、該当者がいる場合は指示書に基づいて適切な対応をしている。アレルギーがある子どもは医師の指示書に基づき対応し、細心の注意を払っている。	特になし	職員間で情報を共有し、該当者がいる場合は指示書に基づいて適切な対応をしている。医師の指示書の提出をお願いしている。アレルギーがある子どもは指示書に基づき対応し、細心の注意を払っている。対応指示書をもらうようにする食物アレルギーの有無を確認し、指示書に基づき除去食を提供するなど、事故防止に努めている。・職員間で情報を共有し、該当者がいる場合は指示書に基づいて対応している。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	研修や訓練を定期的に行ない、職員一人ひとりが安全管理を徹底した中で支援を行っている。	特になし	研修や訓練を定期的に行ない、職員一人ひとりが安全に努めて配慮を行なっている。安全計画・伴った研修・訓練を行っている。安全計画を作成し定期的な研修を行い、安全管理を徹底した中で支援を行っている。行われる。安全計画を作成し、定期的な研修や訓練を行い、アクシデントやヒヤリハットなどを確認しながら支援を行っている。・研修や訓練を定期的に行ない、職員一人ひとりが安全管理に努め十分な支援を行うことが出来る。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0	緊急連絡先をごまめに確認し、事業所の安全計画を元に避難場所を決め、その情報を家族へ周知を行なっている。	特になし	緊急連絡先をごまめに確認し、事業所の安全計画を元に避難場所を決め、その情報を家族へ周知を行なっている。家族への周知も行っている。計画をたて、その内容を家族等へしっかりと周知して連携を図っている。している安全計画に基づく取組内容について、具体的なケースを用いて家族等へ周知している。・避難場所や、緊急時の連絡先などの周知を行い、家族等との連携が図れるように努めることが出来る。
	52	ヒヤリハット委員会を設置して再発防止、対策をスタッフ内で共有できるようなしている。ヒヤリハットの分析を行い、必要があれば会議を行い対応の検討を図る。	7	0	ヒヤリハット委員会を設置して再発防止、対策をスタッフ内で共有できるようなしている。ヒヤリハットの分析を行い、必要があれば会議を行い対応の検討を図る。	特になし	怪我が起こりそうになったときはヒヤリハット、怪我をしたときはアクシデント報告書に分けて作成している。専門の係りをつくり事例検証を行なって職員間で共有している。ヒヤリハットの分析を行い、必要があれば会議を行い対応の検討を図る。ヒヤリハット委員会を設置して再発防止、対策をスタッフ内で共有できるようにしている。しているヒヤリハット、アクシデントを事業所内で共有し、職員間で周知しながら再発防止に努めている。・ヒヤリハット事例について、職員間で共有することで、再発を防止するよう努めることが出来る。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	虐待防止委員会をつくり、毎週虐待案件がないかの確認、状況把握、研修を行ない、職員の意識づけ、適切な対応を学ぶ機会を設けるようにしている。	特になし	虐待防止委員会をつくり、状況把握を行ない、また研修を行なうことで職員の意識づけ、適切な対応を学ぶ機会を設けるようにしている。虐待研修を行っている。発生時のフォローを作り迅速に対応している。虐待防止委員会を設置して毎週虐待案件がないかの確認、定期的な研修も行っている。係を設けて行っている定期的な研修を行い、係でも確認や話し合い、報告を行い、職場全体で周知し対応を考えている。・虐待防止委員会をつくり、日々の状況把握を行い、定期的な研修を行うことで、職員の意識づくりと適切な対応を学ぶ機会を設けることが出来る。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	拘束の適正化については研修を行いまた当施設の姿勢を取り決めて周知している。身体拘束委員会を設置して身体拘束の指針をスタッフ内で共有、保護者にも説明、了解を得て、放課後等デイサービス計画に記載している。	特になし	身体拘束防止委員会をつくり、研修を定期的に行なうことで事業所全体で適切な対応を学ぶ機会を設けるようにしている。拘束の適正化については研修を行いまた当施設の姿勢を取り決めて周知している。身体拘束委員会を設置して身体拘束の指針をスタッフ内で共有、保護者にも説明、了解を得て、放課後等デイサービス計画に記載している。されている。期の替わりに紙面でも説明、確認し、了解を得ている。・身体拘束防止委員会をつくり、定期的な研修を会社全体で行うことで、適切な対応を学ぶ機会を設け、保護者にも文章等で伝えることが出来る。	